

キャリア支援を考える 3 : 厳しさを教えることが 優しさ

著者	川喜多 喬
出版者	教育新聞社
雑誌名	教育新聞
号	2536
ページ	3-3
発行年	2005-04
URL	http://hdl.handle.net/10114/8747

キャリア支援を考える

—3—

イギリスの有名な作家、G・K・チェス

タートンがあるとき、2人の作家仲間と雑談しているうちに、話のテーマは「無人島に流れ着いたとしたら？」になり、その場合に持っていた本は何か？ になった。ある作家は「聖書にする」と言った。さすがキリスト教文明圏である。今の日本人にして「仏典を持っていたい」という人がどれくらいいるか？ 別の作家は「シテイクスピア全書がよい」と言った。さすがイギリス人である。私ほどの教養人であれば「平家物語がよい」と言うかもしれない。今の学生なら新書版1冊も読めぬであろう。学部と同僚の某教授であれば漫画全集を

言いつけずかもしれない。さて、かのチェスタートンはどう言ったであろうか？ 彼は最後になにと言ったのである。「造船技術の本」と。

厳しさを教えることが優しさ

言いつけずかもしれない。さて、かのチェスタートンはどう言ったであろうか？ 彼は最後になにと言ったのである。「造船技術の本」と。

政治家鳩山兄弟の曾祖母にあたる鳩山登子、官立の東京女学校廃止のあとに移ったのは女子師範の「特別実学科」である。いま教育学部といえは実学反対の先生の生産拠点になっているような気がするが、原点に返れと私なら言う。鳩山がやがて作ったのが「共立女子職業学校」であった。職業学校ということ「普通高校」に行けぬ者が行くところなどとして評される嘆かわしい時代になるはずとずっと

法政大学キャリアデザイン学部教授

川喜多 喬

するが、原点に返れと私なら言う。鳩山がやがて作ったのが「共立女子職業学校」であった。職業学校ということ「普通高校」に行けぬ者が行くところなどとして評される嘆かわしい時代になるはずとずっと